



2014年のデビュー・リサイタルから10年、これまで経験した様々なことがようやく自分の中でひとつの線となって繋がっていき、自分という人間のアイデンティティや音楽が深まっていくのを実感しています。改めて、ここまで応援・サポートしてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

時代の変化に伴い、クラシック音楽の在り方も大きく変わろうとしているように感じますが、何百年の時を経ても全く色褪せることなく、私たちの心にダイレクトに響き、様々な感情を湧き起こし、彩りを与えてくれるクラシック音楽の存在はやはり偉大だと痛感する日々です。

私自身は、誰かの役に立てるような力も、大きな影響力もない本当にちっぽけな存在ですが、それでも音楽を心から愛する者のひとりとして、これからも自分の理想とする音楽や音色を追い求めていき、偉大な師匠たちから教わった沢山のことを大切に受け継ぎ、自分というフィルターを通して伝えていきたいと思っています。

今回は、次の10年へ覚悟を込めて、自分にとって新たなプログラムに挑戦しようと選曲をしました。10年の節目を迎えた私の現在をぜひ聴いて頂けると幸いです。

中桐 望

中桐 望 (ピアノ) Nozomi Nakagiri — Piano

岡山県岡山市に生まれ、3歳よりピアノを始める。岡山県立城東高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を首席で卒業。在学中にアリアドネ・ムジカ賞を、卒業時にはアカンサス賞、安宅賞、大賀典雄賞、同声会賞、三菱地所賞を受賞。2013年に同大学院修士課程を首席で修了し、クロイツァー賞、大学院アカンサス賞、藝大クラヴィアア大賞を受賞。第78回日本音楽コンクール第2位。第3回ロザリオ・マルシアーノ国際ピアノコンクール第2位、併せてコンクール委嘱新曲課題曲の最優秀演奏者に贈られるSonja Huber賞受賞。第58回マリア・カナルス国際音楽コンクール第2位・聴衆賞受賞。第7回ピアンレ国際ピアノアカデミー&コンクール第1位。第8回浜松国際ピアノコンクール第2位。大学院修了後は国外のマスタークラスを受講しながら研鑽を積み、2014年1月にはパリのサル・コルトーにおいてリサイタルデビュー。同年4月には故郷の岡山ルネスホール、名古屋の宗次ホール、東京の浜離宮朝日ホールでデビュー・リサイタルを行い、バッハ＝ブゾーニ、シューマン、ブラームス、ショパン、ラフマニノフといった作品を

鮮やかに演奏して好評を博した。

2014年よりロームミュージックファンデーション奨学生としてポーランドのビドゴシチ音楽院研究科へ留学。

2015年1月にデビューCD『ショパン&ラフマニノフ』（オクタヴィア・レコード）がリリースされ、その記念として東京・名古屋・大阪・岡山・静岡・愛媛などでリサイタル・ツアーを開催。特に東京の浜離宮朝日ホールでのオール・ショパンプログラムの演奏が高く評価され、2015年度の第42回日本ショパン協会賞に選ばれる。

2019年にセカンドアルバム『ショパンの歌』（オクタヴィア・レコード）をリリース。

ピアノを内山優子、近藤邦彦、平川真理、芦田田鶴子、大野真嗣、角野裕、エヴァ・ポプウォツカの名氏に師事。現在は岡山を拠点に国内で演奏活動を行う他、後進の指導にも力を注いでいる。日本ショパン協会正会員。